

七戸町ゼロカーボン推進協議会第2回会合 議事要旨

【開催概要】

日時：令和4年12月20日（火） 13：30～15：00

場所：七戸中央公民館 大ホール

議事：

- (1) 前回議事概要について
- (2) ゼロカーボン総合戦略について
- (3) 主要な戦略テーマ等について

【議事要旨】

◎議事（1）：前回議事概要について

- ・ 第1回七戸町ゼロカーボン推進協議会の議事概要を確認し、了承された。

◎議事（2）：ゼロカーボン総合戦略について（七戸町の地域特性）

- ・ 第1回七戸町ゼロカーボン推進協議会において、七戸町の特徴について示すことを指摘している。七戸町の特徴をどう捉えているのか。（本田会長）
⇒温室効果ガス排出量について部門別でみた場合、大きな製造業の集積地等はなく、家庭部門と運輸部門が大きい割合を占めている。また、東北や北海道は、冬季の暖房に係るエネルギー消費が多く、その特徴がみられる。このような部分に可能な限り再生可能エネルギー等を導入していく方向で検討したい。また、畜産を含む農業部門からのその他ガスの排出量が多いため、七戸町としても対策を進める必要がある。（事務局）
⇒七戸町はポテンシャルが豊富であることを十分に理解し、検討を進める必要がある。（本田会長）

◎議事（2）：ゼロカーボン総合戦略について（提示戦略）

- ・ 今回の資料は個々の戦略が複数記載されているだけである。定量的なものは何も示されていない。事務局間での協議は行っているのか？（本田会長）
⇒事務局間で何度も協議を重ねている。現状では、構想的な計画を具体的な戦略にまで、なかなか落とし込むことはできないが、可能な範囲では、定量的な検討は行いたい。（事務局）
⇒その際、再エネの導入戦略は、再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）で示された情報等とも整合のとれた、地域にふさわしいものである必要がある。
また、その開発においては、地域外の資本に依存するのではなく、地域経済が循環するような裨益型の開発になるように、七戸町的意思決定を行わなければならない。（本田会長）

- ・ 荒熊内地区の戦略については具体性が高いが、実現に向けた費用感や戦略によって得られる効果というものが示されていない。また、2050年までに七戸町全体のゼロカーボン達成するという目標も道筋がみえない。第一回脱炭素先行地域で採択された自治体の計画書を参考に、具体的なロードマップを含めた記載にするべきである。(平戸委員)
- ・ 新庁舎建設に係る金額が具体的に示されている点は良い。しかし、投資回収年数が43年に及ぶような投資は通常できないため、費用対効果を踏まえた現実的な計画にする必要がある。(木村委員)
- ・ 近年、七戸町は災害が多くなっている。高瀬川水系は流量が十分にあることから、氾濫の可能性もあるが、そのエネルギーを活用できれば、災害にも強く、エネルギー生産も可能な町となる。そのようなアプローチができるとよい。(番場委員)
- ・ 第2回の脱炭素先行地域選定までは先行地区となるエリアを設定し、民生部門の温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることが重視されていた。第3回脱炭素先行地域選定以降は、地域課題の解決に資するモデル性のある事業がより採択されるように、地域の公共交通や農畜産業を活用した取組に評価点が加算される方針となるようである。七戸町においては、そのようなモデル性をアピールしていくことも重要であると考えている。(事務局)

◎議題(3)：今後の予定について

- ・ 総合戦略の骨子は、施策の柱を中心に端的にとりまとめたものである必要がある。事務局にて十分に協議した内容をA3判1枚程度でまとめ、次回のゼロカーボン推進協議会で提示すること。また、あらかじめ委員に配布してほしい。(本田会長)

以上